

関の森公園リニューアル

Ver.20250924

目次

- 関の森公園について・・・P 1
- 関の森公園の主な歴史・・・P 2
- 関の森公園園内図・・・P 3
- 関の森公園年表・・・P 4
- 関の森公園リニューアル事業の必要性について・・・P 6
- 各施設の概要について・・・P 7～P 18

全10施設

交流センター、レストラン・ショップ（管理棟）、ビジュアルハウス
相撲道場、ふるさとの家、江戸の関所、水車小屋（そば打ち体験施設）
体験農業園地等管理施設、農畜産物処理加工施設、
ログハウス（竹材加工施設）

【参考】

- 関の森公園基本構想抜粋・・・P 19
- 関の森公園基本計画抜粋・・・P 20～P 21
- 関の森公園リニューアル事業の課題点・・・p 22

関の森公園について

○白河関の森公園は、白河市の旗宿地区にあり、奥州三古関のひとつである「白河関跡」に隣接した公園です。

○園内には、白河地方の直家造りの茅葺き民家をそのまま移築した「ふるさとの家」や子ども向けの大型遊具が設置され、週末には親子連れで賑わいます。

また、四季折々の花が植えられており、特に春には、かたくりやハナモモ、桜といった花々が咲き誇り、老若男女に楽しまれております。

関の森公園の位置について

○白河市の中心地から車で約20分（約1.2km）の位置に立地している。

※白河市の中心地から関の森公園まで直接距離で約1.0km

○公共交通はバスのみであり、平日に3本・休日に2本の運行のため、ほとんどが自家用車での移動となっている。

関の森公園の主な歴史

- 昭和61年より平成5年にかけて、農林水産省の補助金等を活用し、施設整備を進める。
- 平成3年4月20日 白河関の森公園オープン
 - ※平成4年に農畜産物処理加工施設整備
 - 平成5年に都市農村交流センター、相撲道場整備
- 平成22年 花の里構想策定（平成27年度まで実施）
- 平成26年8月8日 大型遊具リニューアル
- 令和3年 関の森公園リニューアル事業開始

関の森公園 園内図



関の森公園 年表 1

年	できごと	補助金活用等
S61	江戸の関所	地域経済活性化対策事業（旧自治省）
S62	合併処理施設、しいたけほだ場、 おくのほそ道 遊歩道	
S63	ふるさとの家	地域経済活性化対策事業（旧自治省）
	ログハウス（竹材加工施設）	林産集落振興対策事業（農林水産省）
	給水施設、「芭蕉・曾良」像	
S63～H1	レストラン・売店・管理事務所（自然活用総合管理施設）、体験農園	新農業構造改造事業（自然活用型） （農林水産省）
H1	ビジュアルハウス（資料館）	地域経済活性化対策事業（旧自治省）
	体験農業園地等管理施設	新農業構造改造事業（自然活用型） （農林水産省）
H2	そば打ち体験施設・水車小屋 （郷土文化保存伝習施設）	新農業構造改造事業（自然活用型） （農林水産省）
	野外緑地広場、駐車場	
H3	白河関の森公園オープン（4月20日）	

関の森公園 年表 2

年	できごと	補助金活用等
H4	農畜産物処理加工施設	新農業構造改造事業（自然活用型） （農林水産省）
H5	白河都市農村交流センター	新農業構造改造事業（自然活用型） （農林水産省）
	白河相撲道場	
H12～H13	わんぱく広場 コンビネーション遊具	
H14	駐車場増設	
H22～H27	花の里構想	
H24	花広場整備 （ビジュアルハウス脇・古代の関所跡地）	H23 花好きの奥様の御遺志で500万円寄付あり
H26	大型遊具リニューアル（8月8日）	こども元気復活交付金
R3	白河関の森公園リニューアル事業開始 白河関の森公園に係る基礎調査及び基本構想策定	
R4	白河関の森公園基本計画策定	

関の森公園リニューアル事業の必要性について

- 白河関の森公園は、地域振興を目的として平成3年に整備され、30年以上経過し各施設は老朽化が目立ってきている。
- 平成26年に大型遊具のリニューアルを行い、新たな魅力が創出され、利用者数は回復傾向にあるものの、コロナ以前の入込客数に達していない
- そのため、公園内はもちろん旗宿地域全体の将来を見据えたりリニューアルを検討する時期になっている。

関の森公園入込客数（年）

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
107,305	90,024	60,035	79,725	97,271	91,791	90,334

交流センター

○概要

園内にある宿泊もできる施設。

主に、子育てサロンや高齢者サロンの場としての利用され、大学相撲部や子ども会などの合宿の場としても使用される。

館内には、風呂場、洗面所、トイレ、キッチン、洗濯機が備えつけられている。大部屋は、70畳以上の広さがあり、ふすまを閉めることにより、25畳、21畳、25畳の3部屋に分けることが可能。

○建築面積：344.82㎡

○延床面積：338.76㎡

○建ぺい率：算出中

○構造:鉄筋コンクリート造

○竣工：平成5年

○課題点

- ・空調設備の不良
- ・宿泊施設として、男女別・個室対応することができない。

交流センター利用状況

○入込客数

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
489	430	243	536	828	3,434	3,881

○うち宿泊数

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
確認中	371	84	11	111	229	157



レストラン・ショップ（管理棟）

○概要

関の森公園の駐車場に近い導入部に位置し、レストラン・売店（ショップ）として公園へ賑わいを生み出す施設として位置づけられる。※管理事務所として利用。

○建築面積：算出中 ○延床面積：算出中 ○建ぺい率：算出中

○構造:鉄筋コンクリート造

○竣工：昭和63年～平成元年

○課題点

- ・建物へのアプローチがバリアフリー化されていない
- ・レストランは、毎年4月～12月（冬季は休業）に地域住民により地元のそば粉を使用し、そばを提供していたが、令和6年12月をもって退去・閉店。現在は、イベント時のみ貸し出し



ビジュアルハウス

○概要

白河の関を紹介する施設として、建設された。展示空間機能を有しているが故障しており、現在は使用していない。

○建築面積：398.58㎡

○延床面積：349.15㎡

○建ぺい率：算出中

○構造:鉄筋コンクリート造

○竣工：平成元年

○課題点

- ・映像機器などを使用したい場合は、改修が必要。
- ・トイレなど施設全体の修繕必要。



相撲道場

○概要

関の森公園の最も駐車場に近い導入部に位置しており、年数回大学相撲部等による合宿で活用されている。

○建築面積：318.00㎡

○延床面積：275.98㎡

○建ぺい率：算出中

○構造:鉄骨造

○竣工：平成5年

○課題点

- ・建物へのアプローチがバリアフリー化されていない
- ・水回りで修繕必要な箇所あり（トイレ・風呂）。
- ・現状の利活用が限定的である。

○入込客数



H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
95	72	0	0	80	90	161

ふるさとの家

○概要

明治初期の農家を移転し、ふるい民家のたたずまいを再現した施設。
現在は、関の森公園でのイベントに合わせて、市内の団体が昔話を披露する会を年数回実施。

○建築面積：192.56㎡

○延床面積：192.56㎡

○建ぺい率：算出中

○構造:木造平屋建

○竣工：昭和63年

○課題点

- ・茅葺屋根の老朽化 ・現状の利活用が限定的である。



江戸の関所

○概要

白河藩に実在したものではないが、江戸時代の関所を再現した施設。

※以前は、白河の関（古代の関）モニュメントがあり、それと対比されていた。

現在は、年数回、ひな人形などを展示する場や遠足時に園児たちの休憩所として活用されている。

○建築面積：算出中 ○延床面積：算出中 ○建ぺい率：算出中

○構造:木造平屋建

○竣工：昭和61年

○課題点

- ・現状の利活用が限定的である。



水車小屋（そば打ち体験施設）

○概要

白河の伝統的な産業の一つであるそば打ち体験ができる施設。
旗宿地域のそば生産組合や市内の公民館事業の一環でそば打ち行われている。

○建築面積：104.34m²

○延床面積：97.72m²

○建ぺい率：算出中

○構造:木造

○竣工：平成2年

○課題点

- ・水車が故障しており、動かすためには修理が必要。
- ・水車を動かすために、農業用水を活用しているため、供給量が安定しない。

水車小屋（そば打ち体験施設）（2）

○入込客数

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
166	86	125	287	260	269	266



体験農業園地等管理施設

○概要

体験農園の屋外トイレ及び休憩所、用具倉庫を備えた施設。
現在は、使用されていない。

○延床面積：算出中

○建築面積：算出中

○建ぺい率：算出中

○構造：

○竣工：平成元年

○課題点

- ・リニューアルの予定なし。

農畜産物処理加工施設

○概要

みそや梅干しを加工するために使用されている施設。

旗宿地区の方が、毎年味噌をつくっている。

以前は、この施設で加工した梅干しを園内の売店で販売していたが、食品衛生法の改正に伴い、衛生管理基準を満たしていないことから、販売は行われなくなった。

○延床面積：算出中

○建築面積：算出中

○建ぺい率：算出中

○構造：

○竣工：平成4年

○課題点

- ・リニューアルの予定なし。

ログハウス（竹材加工施設）

○概要

旗宿地区の竹を活用して、箸などを加工していた施設。
現在は、使用されていない。

○延床面積：算出中

○建築面積：算出中

○建ぺい率：算出中

○構造：

○竣工：昭和63年

○課題点

- ・リニューアルの予定なし。

関の森公園基本構想概要

公園整備(まちづくり視点)の課題整理

地元への帰郷を促進する魅力の創出

若い世代の地元への帰郷を促進する白河市独自の自然の豊かさを活用した新たなライフスタイルの創出や安心して子育てができるようなまちづくりを構想していく必要性があります。

雇用創出を促す取り組みの必要性

白河での雇用創出に寄与し、白河の歴史・伝統等への愛着や誇り、人材育成に寄与し、既存の地域資源を活用した持続的で住みやすいまちづくりの計画が求められています。

交流機能のさらなる強化

これまでの歴史を踏まえた、人と人との交流、世代間の交流、田園と都市の交流など新たな交流創造に寄与する計画が求められています。

自然を生かした取り組みの必要性

白河市の土地利用方針も踏まえ、関の森公園の整備にあたっては、白河の良さを活用した「グリーンツーリズム」などの機能が求められています。

歴史資産等を活用した観光導線の整備

白河関跡等、周辺の歴史資産との導線を考慮した観光体験、1日公園で楽しめる体験、自然と調和し、宿泊を伴う体験での活用など、様々なポテンシャルを有しています。

滞在型観光客の増加への取り組み

白河関の森公園のポテンシャルを活用した1日滞在できる機能、また数日楽しむことができる宿泊型の体験などの可能性が見出せます。

公園整備の方向性

- ・四季を感じ一日楽しめる関の森公園を中心としたまちづくり
里山の魅力を活かしつつ、四季を感じることができる花壇等の植栽を整備
- ・白河の地産地消を体験する場(育て、収穫し、食す)
地元で育てた収穫した食材を活用したカフェやレストランの整備
- ・白河関の森公園でしか経験できない自然体験・環境教育の場
自然が「遊具」となるような、自然型の体験ができる公園整備
- ・さまざまな人が楽しめるコミュニティ形成の場
様々な立場の人が気持ちよく足を運び、楽しめるような公園整備
- ・白河の歴史を知り体験する場としての公園整備
白河の関や奥の細道に関連した散策体験のイベント

公園整備のコンセプト

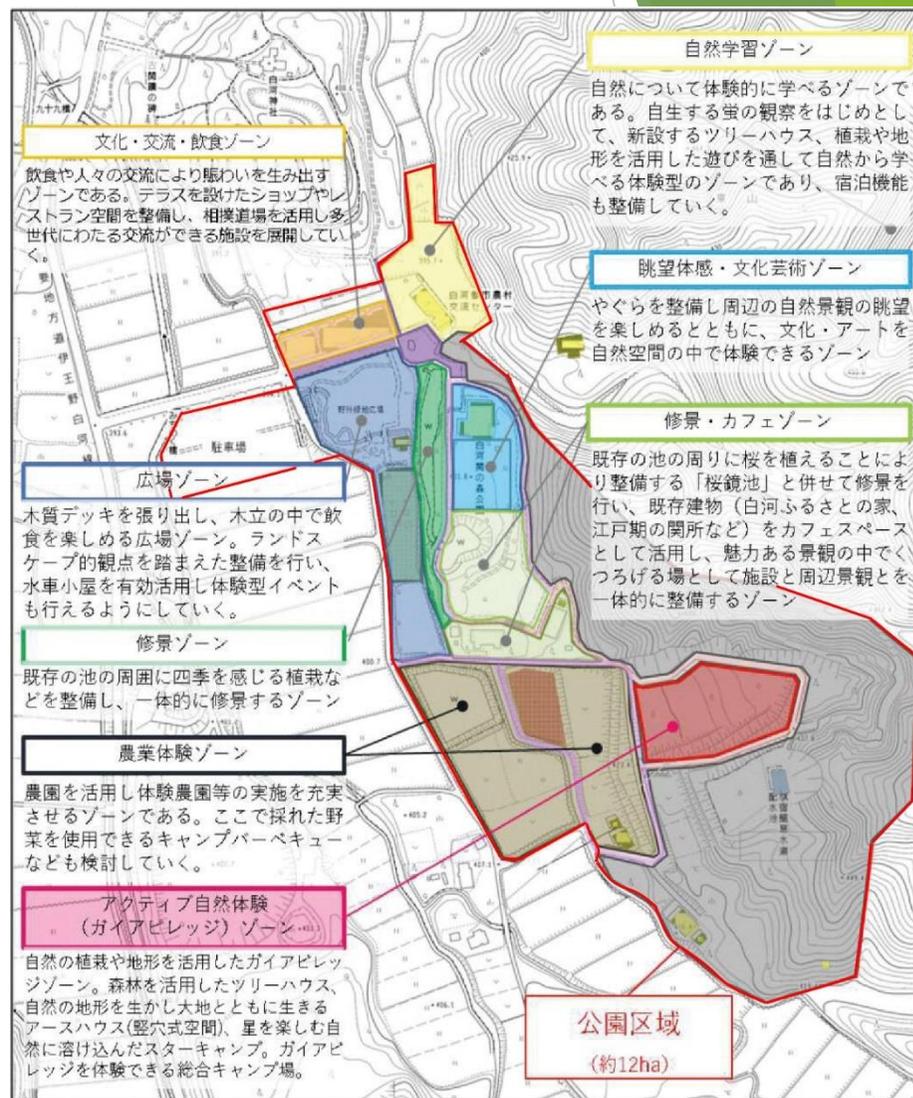
- ・行政・地域住民と一緒に継続して育む公園
ソフト・ハード共に住民参加型で育める視点が必要となっています。
- ・公園周辺も含めた「まちづくり」の視点
周辺のコンテンツ(林道、ダム、天狗山、夜景など)も考慮した「まちづくり」の視点が必要となっています。
- ・世界に発信できる風景や仕組みのある公園
今後のプロモーションも踏まえた視点が求められています。

関の森公園基本計画

白河関の森公園が有する豊かな自然資源等を生かした体験や学びができるよう8つのゾーンを設定し、それぞれのゾーンと施設をロードによりつなぐことで、関の森公園の魅力を高める。

- ① 文化・交流・飲食ゾーン
- ② 自然学習ゾーン
- ③ 眺望体感・文化芸術ゾーン
- ④ 修景・カフェゾーン
- ⑤ 広場ゾーン
- ⑥ 修景ゾーン
- ⑦ 農業体験ゾーン
- ⑧ アクティブ自然体験（ガイアビレッジ）ゾーン

関の森公園ゾーニング図

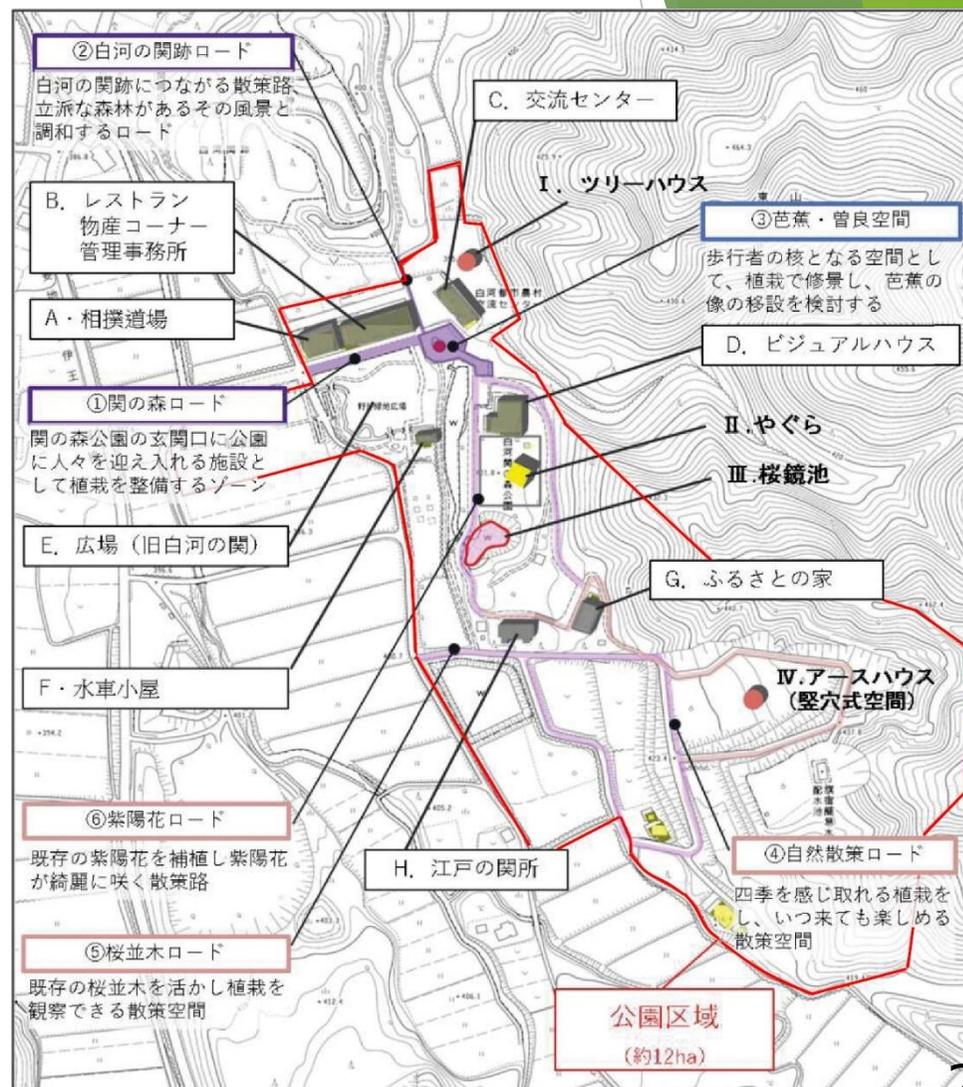


関の森公園基本計画

白河関の森公園が有する豊かな自然資源等を生かした体験や学びができるよう8つのゾーン・6つのロードを設定し、それぞれのゾーンと施設をロードによりつなぐことで、関の森公園の魅力を高める。

- ① 関の森ロード
- ② 白河の関跡ロード
- ③ 芭蕉・曾良空間
- ④ 自然散策ロード
- ⑤ 桜並木ロード
- ⑥ 紫陽花ロード

関の森公園ロード図



関の森公園リニューアル事業の課題点

- 整備手法どうするか（Park-PFIの導入等）
- どういったリニューアルをすべきか
（リニューアル対象施設どこにするか、新規施設建設するのか、
目的地となるにはどうすればよいのか）
- リニューアル後の運営主体どうするか
- 公園内の民地買収（都市公園へ移行するために必要）
Park-PFIを導入する場合、関の森公園を都市公園へ移行必要。